



姉妹都市締結20周年を祝って

登別市が「恵山ツツジ」を寄贈



白石市・登別市の姉妹都市提携20周年を記念して、登別市から「恵山ツツジ」を3本寄贈いただきました。4月2日、前日の市制施行50周年記念式典に出席のため白石を訪れた上野晃・登別市長など関係者が出席して植樹式が行われ、白石城・武家屋敷・検断屋敷の3カ所に恵山ツツジが植樹されました。北海道の活火山「恵山」のふもとに自生する恵山ツツジは、5月末から6月上旬にオレンジ色の花を咲かせ、秋の紅葉も見事とのことです。

多彩な催しで大にぎわい

ポーチパーク「おだづもっこり祭」

4月4日、楽しみながら買い物ができる小公園・ポーチパークで、「おだづもっこり祭」と銘打ったイベントが開催されました。



郡山萩太鼓の演奏で始まったイベントは、買い物ごとに進呈したビンゴカードで豪華賞品が当たる「大ビンゴ大会」をはじめ、そばの試食や会員への各小店ごとの特典など、楽しい催しが盛りだくさんでした。ポーチパークでは、今後も3カ月に1回程度の割合で、定期的に楽しいイベントを開催していきます。

地域を守る「110番タクシー」

警察とタクシー会社が協定締結

4月5日、白石警察署と白石・刈田地区のタクシー会社6社は、「安全・安心まちづくり推進協定」を締結しました。

各社のタクシーが「110番タクシー」となって、不審者や不審車両の情報、子どもや高齢者などの事件事故に関する情報、災害危険箇所に関する情報などを警察署に提供協力するのが、この協定の主な内容です。

市民の皆さん、「危険」がありましたら、手をあげてタクシーの運転手さんに情報提供をお願いします。



▲このステッカーが目印です

ハガキに交通安全の願いを込めて

交通安全さくらメール作戦

3月18日、春の交通安全運動の前に、「交通安全さくらメール作戦」のはがき受け渡し式が行われました。白一小・白二小の児童が交通安全のメッセージを記したはがきを、お年寄りたちに配達するこの作戦。「よろしくお願いします」と児童代表が託したはがき1,230枚が、交通安全協会関係者を通じて白石郵便局にしっかりと受け渡されました。



交通安全の願いを込めた心温まるはがきは、運動初日の4月6日、郵便局員が各世帯に配達しました。

みやぎスマイルロードプログラム

越河第9区自治会が市内初の認定

県道などの美化活動を支援する「みやぎスマイルロードプログラム」の「スマイルサポーター」として、3月22日、越河第9区自治会が市内で初めて認定されました。



同自治会では、地区内の県道越河角田線約1,100メートルの区間で、県や市の支援を受けながら清掃作業や花の植栽などの緑化作業を、4月から実施していくことになりました。

越河第9区自治会では、これまでも市のクリーン作戦参加をはじめ、自治会をあげて自主的な環境美化活動を積極的に行っています。

新たな門出を祝いました

手をつなぐ育成会「卒業を祝う会」



3月21日、中央公民館で、障害を持つ子どもたちの親などをつくる白石市手をつなぐ育成会が、この春小中学校などを卒業した子どもたちの新たな門出を祝う、「卒業を祝う会」を開きました。

来賓からの温かい祝福の言葉に続いて、卒業生それぞれが、これからの目標や意気込みを発表しました。

音楽集団「ラパス」による南米音楽の祝福も受けた卒業生たちは、とてもうれしそうでした。

各分野で活躍の児童生徒を顕彰

吉見教育基金顕彰

3月29日、スポーツや芸術活動などで好成績を取った小中学生を顕彰する「吉見教育基金」の顕彰状授与式が市庁舎で行われました。

この基金は、平成9年3月に閉園した和洋裁学校「吉見学園」からの寄付金を基に創設されたものです。



■顕彰された児童生徒13名(敬省略) 祝陽平、渡邊葵(以上白一小)、成澤彩乃(白二小)、古山理沙、末永彩百合(以上越河小)、石井葵、佐藤洸汰(以上大鷹沢小)、大槻咲乃(南中)、安達直人、一條雅和、椎野健人、大門卓矢、平間理奈(以上東中)

アリーナ舞台設備のこけら落とし

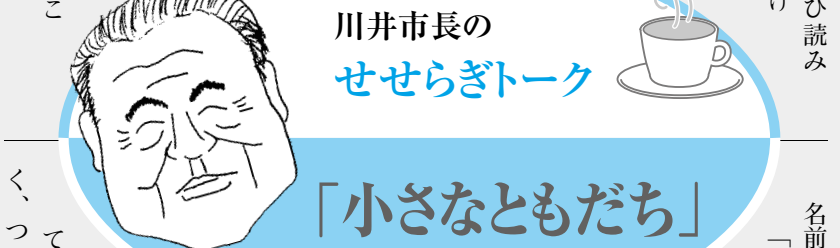
キューブで八代亜紀コンサート

3月26日、新たに整備したホワイトキューブのアリーナ舞台装置のこけら落としとして、「八代亜紀コンサート」が開催されました。コンサートには、昼と夜の2回公演、合わせて2,883人の観客が詰めかけました。



華麗な衣装に身を包んだ八代さんがスポットライトを浴びながら登場すると、会場からは割れんばかりの拍手がわき起こり、八代さんは「舟唄」や「雨の慕情」など、おなじみのヒット曲十数曲を熱唱し、観客の声援にこたえていました。

昨年の十二月二十一日、ぜひ読みたい本があつて、仙台に出かけた。アエルの丸善に寄つたが、見あたらない。長町モールの紀伊国屋にならあるかもしれないと思つて、地下鉄で長町まで行つて、首尾良く手に入れた。



川井市長のせせらぎトーク

「小さなともだち」

名前は?と聞いたなら「大沼友律恵です」「大沼さんで、村田では多い名前だよね。私に昔、「大正」という大きな家に友達がいてね」などと話をしているうちに、ちらちらと、袖口から手首に、ボールペンで書いたような文字が見える。「それ見せてごらん」と言つたら、素直に見せてくれた。そこには6と16・41と、数字が書いてあつた。「あれ、どうしたの」と聞いたら、「私は村田一中の三年生です。今日

は、一人で模擬テストを受けに仙台に行つて来ました。帰りに乗る電車のホームと、出発時間を忘れないように、ここにボールペンで書いて来ました。なんともかわいらしく、つい、吹き出してしまったが、「それじゃあ、友律恵ちゃんを受験なんだ」「そうなんです」。ひとりぼっちで模擬テストを受けて来て、頭の中は慣れない電車に乗る心細さと、受験の事でいっぱいだろう。それなのに、座った席を譲ってくれる。素晴らしい子ではないか。「ぜひ、学校が受かる」といいね。頑張りなさいね」と言つて別れたが、どうにも心が残る。さて、高校受験の発表である。私は思い切つて、村田一中に電話をしてみた。「大沼友律恵さんは合格したでしょうか」。校長先生は弾んだ声で「ええ、合格しました。家から通学します」と。お祝いに、明治大学の学長からいただいた文鎮を兼ねた時計を送った。

四月一日、車で移動中、携帯が鳴った。秘書からである。「大沼友律恵さんが市長に入学祝いをいただいたので、お礼にいらつしゃいました」「待っていてもらつて」と電話を切る。友律恵さんは、お父さんが駐車場の車の中にいるということで、秘書室で一人ぼつんと待っていた。おそらく郵送しようとしていたところ、お父さんに市役所まで送ってもらつたのだらう。作つた見事な貼り絵に、手紙が添えられていた。「あの時、私は受験が近く、あせりがつのるばかりでした。しかし、市長さんとお話できたことで気持ちが落ち着くことができました。正直に話しますと、町長さんや市長さんという立場の方は、いばっている」というイメージがありました。名刺をいただいた時、びっくりしました。私の方こそ感謝しています。そして今回、大変遅くなつてしまいましたが、お礼に「花鳥風月」という貼り絵を送ります。村田町にお住まいの大庭邦子さんという方の指導を受け、頑張つて作りました。どうぞお飾りください。」